これまでの懇談会での議論を踏まえた論点整理

資料３－１

PHR

- PHRの実現に向けたさまざまな課題について、実証を通じて解決を図っていくべきではないか。
- PHRを進めていくメリットを国民に理解してもらう必要があるのではないか。例えば、転職によりデータが分断することのデメリット、健康データを自分のものとして時系列的に把握することのメリットを国民に伝えることが重要ではないか。
- 専門的なデータを持つ個人が、どのように自分に合ったサービスを選択するかといった出口の部分をしっかりと検証していく必要があるのではないか。
- 医療・健康情報について、まずは実際に使える環境を作り出してこそリテラシーの向上が図られるのではないか。また、使えるデータがあってこそ個人をサポートするサービス産業が出てくるのではないか。
- PHRについては、以下のようなユースケースが考えられるのではないか。
  - 生活習慣病の疾病管理手帳の電子化
  - 母子手帳の電子化、小中学校時の健診結果や体力測定の管理プラットフォーム
  - 健診データ、活動量等の低価格で持続可能なプラットフォームと適切な健診受診勧奨等への活用
  - 介護予防手帳の電子化
- PHRの実現に向けて、以下のような課題をクリアすべきではないか。
  - データのポータビリティを確保するためのデータの標準化
  - EHRからPHRへの情報の提供・引出しの在り方を含めたデータの集め方（入力）の簡便さやデータの信頼性
  - データの安全かつ効率的な管理の在り方
  - コスト負担を含めたビジネスモデルの確立
  - データの継続性の確保
  - 個人情報やプライバシーの保護とデータ活用の両立

モバイル

- 地域の医療・介護従事者が、スマートフォンのアプリ等で簡便に利用できる統一的な情報連携システム基盤の整備が期待されているのではないか。
- 新たなモバイルサービスの医療関連ガイドラインへの適合性を実証を通じて検証するなど、先進事例をどうやって普及させていくかを考え、具体的なアクションに移していくべきではないか。
- クラウド時代に対応したガイドラインが必要ではないか。

8K

- 遠隔病理診断、遠隔診断支援等に8Kが有効である可能性があるとの医師の意見がある。離島・へき地と中核病院等を衛星等を使って8K伝送により結ぶなどの実証を通じて8Kの医療応用の可能性を検証すべきではないか。